



## 女性管理職の悩み

5年で改善1.5ボットどまり

フルタイム労働者の2024年の月額賃金について、男性を10とした女性の指数は75.8で、5年前から縮まった差が1.5減少しました。これが14日、共同通信の分析で分かった。女性の賃金が男性に追いつく動きが近年弱まっている。管理職に占める女性の割合が伸び悩んでいることが背景にある。都道府県別に調べると、北海道や北関東で男女の賃金格差が顕著だった。(2面に関連記事)

フルタイム労働者の2024年の月額賃金について、男性を100とした女性の指數は75・8で、5年前から縮まった差が1・5%にとどまつた。などが14日、共同通信の分析で分かった。女性の賃金が男性に追いつく動きが近年弱まつてゐる。管理職に占める女性の割合が伸び悩んでいるのが背景にある。都道府県ごとに調べるといふ東海や北関東で男女の賃金格差が顕著たつた。（2面に関連記事）

1986年の男女雇用機会均等法施行から4月で40年。24年の男性の月額賃金は36万3100円、女性は27万5300円で依然9万円近い差がある。根強い性

別役割分業意識の性別による違いもある。ジエンダー平等主義は喫緊の課題であり、厚生労働省の本統計調査をみると、た。5年間で女性の間の格差は10.04年に30.04～09年は25.5%だった。11年は26.6%、11.7%。15.5%だった。11年間の動きが分かる。同志社大の「ワークライフジエンダー平等主義職の伸びにあり、賃金の低下している」と分析。は改善しているが、「遅い」とし、今は欧洲並みの平

職場を嫌つて女に流出する問題ソーシャル平等化に、早急な対応が賃金構造基盤に分析し、相まつた男女の賃金差が2009年4月に達した。2014年が1.19年は、2014年以降の10年で、川口章教授によると、バランスとは女性管理職の停滞感があるにつながつて、賃金格差がベースが後数十年間、平等な社会の

大きい。同じ基準でさかのほれる06年から直近の24年まで19年間の全国の平均値は72・0、兵庫は73・7。各都道府県別で最も格差が大きかったのは、70・5の三重だった。茨城、愛知、栃木、静岡が続いた。製造業が盛んで所得水準はCで、管理職に占める女性の割合が低い地域が多かった。

格差が最小なのは沖縄の78・4で、その次は高知、鳥取、島根、徳島が並ぶ。県内の所得水準が比較的D高い傾向がある。

奈良、京都は産業が集積して所得も高いが、女性管理職の登用が進んでおり、格差は徳島に次いで小さかつた。

各都道府県で格差は縮まりつつあるが、順位変動は乏しい。愛知県の男女共同

事を読んで、下の問い合わせに答えましょう。

賃金格差が縮まらない理由を本文中から解答欄に

の割合が伸び凶ん

A～Dにに入る言葉を次の①～⑥から選んで記号

תְּמִימָנָה וְמִתְּמִימָנָה בְּבֵין אֲבָנָה וְבֵין אֲבָנָה

過疎地 ②大都市圏 ③大きい ④小さい ⑤高

D  
C  
B

111

NIE-7

## NIEワークシートのこたえ（2026年2月17日公開）

◆ワークシート「男女賃金格差縮小鈍る(社会)」  
2026.2.15付 朝刊 1面 解答

1 管理職に占める女性

2 A ② B ④ C ⑤ D ⑥